

滋賀県 令和3年度
未来へつなぐ 滋賀文化活動応援事業
実績報告書

活動番号 0920-0181

活動名称

岡本里栄 個展 Who Am I ?

OKAMOTO Rie solo exhibition
Who Am I ?



2021.10.12 (Tue.) - 10.23 (Sat.) | 12:00 - 18:00 | Closed Mon.

galerie 16

展覧会 DM デザイン

展覧会概要

岡本里栄 個展 Who Am I?

会期 | 2021年10月12日[火]-10月23日[土]

時間 | 12:00 - 18:00

休廊 | 月曜

会場 | galerie 16

〒605-0021 京都府東山区石泉院町394 白川橋上ル 3階

ステートメント

Who Am I?

わたしとは誰のことか。どこまでがわたしなのか。人は自身のことを何であるか誰であるか、どうやって捉えているのだろうか。ありのままの自分と言われて裸の自分を思い描く人はどれくらいいるだろう。

私はありのまま＝糸纏わぬ姿だとは思わない。身に纏う衣服はわたしをわたしたらしめる重要な要素ではないだろうか。選ぶこと・選ばないこと・選ばされること。例えば誰かがピンクの服を選ぶこと、フリルを、レースを、花柄を、スカートを選ぶこと。例えば誰かが他者に決められたルールのもとで望むと望まざるとにかかわらずベールをかぶること。

それが“わたし”になっていくだろう。それは自らが選択していてもいなくとも。脱がれた衣服は誰かの選択の痕跡であり、誰かの脱け殻であり、その人自身である。私は人を描いている。

10月16日(土) 18:30-
オンライントーク
衣服・身体・ことば



◎YouTube 配信でトークイベントを開催します



https://youtu.be/JLvvmn_U-jQ

←QRコードを読み取り、
YouTube にアクセスして
ご視聴ください。当日
の配信後はアーカイブ
をご覧いただけます。

本展覧会への
テキストを寄せて
いただきました。

下記QRコード
を読み取っていた
だとテキストを掲載
した岡本里栄のウェブ
ページへアクセスします。→

<https://okamotorie07.com/>



ゲスト | 蘆田裕史氏 ASHIDA Hiroshi

京都大学大学院人間・環境学研究所博士課程単位取得退学。京都服飾文化研究財団アソシエイト・キュレーターなどを経て、現在、京都精華大学デザイン学部准教授/副学長。専門はファッション論。著書に『言葉と衣服』（アダチプレス、2021年）訳書にアニェス・ロカモラ&アネケ・スメリク編『ファッションと哲学』（監訳、フィルムアート社、2018年）などがある。ファッションの批評誌『vanitas』（アダチプレス）編集委員、本と服の店「コトバトフク」の運営メンバーも務める。

岡本 里栄 個展 〈Who Am I?〉 に寄せて

ここに一枚の服があるとする。どこかのお店でマネキンがその服を着ているのを見ても、ほとんどの場合、おそらくあなたは特に何も思わないのではないだろうか。思ったとしても、かわいいな、とか、自分には似合わないな、とか、せいぜいそのくらいだろう。

一方、その服が道ばたに脱ぎ捨てられていたらどうだろうか。これは誰かが落としたのか、あるいは捨てたのか、それとも犯罪に巻き込まれたのか、そんなことを思うだろう。

同じ服なのに、なぜ違いが生じるのか。服はタブラ・ラサとまではいかなくとも、もともとニュートラルで、まっさらな状態にある。それを持ち主が生活のなかで身につけていくことで、そこにさまざまな情報や痕跡が蓄積されていく。その結果、服が物語を、イメージをまとめるのだ。そうしてまとった物語やイメージは、着用者の身体が見えずとも、衣服にまとわりつく。

岡本が描く衣服——手袋やマスクも含め——は、着用者の身体が不在であるだけでなく、折れ、皺、汚れなどがそのまま表されている。ファッション写真のように、衣服をスタイルの良いモデルに着せることによっておしゃれに見せるようなことはしない。ときにはベッドの上に無造作に置かれ、ときには地面で朽ちていくのを待つかのようである。そこにおいて私たちがまなざしているのは、衣服が着られていたときの着用者の物語だと言えよう。私たちは衣服を通じて、着用者の生を見ようとするのだ。

さらには、描かれた衣服は細い紐のようなものに囲まれている。この紐状のものは、作品の傍らにあり、作品と切っても切り離すことのできないフレーム——思想家のジャック・デリダはそれをパレルゴンと読んだ——とは異なると考えられる。紐によって形成される線は、フレームの役割を超えて画面上に闖入し、フレームと作品の境界を曖昧にする。そしてその線が切り抜かれ、画面に穴を開ける。絵画（タブロー）からの脱却を目指すかのよう。

そう考えるならば、岡本は境界を探っていると言えるのかもしれない。衣服と身体の境界、作品とフレームの境界、さらに言えば、絵画とそうでないものの境界……。その実践の果てに見えるのはどのような景色なのだろうか。

ファッション研究者 蘆田 裕史 Ashida Hiroshi



→ YouTube でのオンライントークの様子
アーカイブが残っており現在も視聴可能

岡本 里栄 個展 〈Who Am I?〉 オンライントーク

92 回視聴 • 2021/10/16 にライブ配信

🔍 🔔 📄 説明書 🗨️ 共有 📌 保存 ...

岡本里栄 個展 Who Am I ?

会場風景

撮影 | オカモト アユミ



岡本里栄 個展 Who Am I ?

会場風景

撮影 | オカモト アユミ



岡本里栄 個展 Who Am I ?

会場風景

撮影 | オカモト アユミ



岡本里栄 個展 Who Am I ?

会場風景

撮影 | オカモト アユミ



岡本里栄 個展 Who Am I ?

会場風景

撮影 | オカモト アユミ

